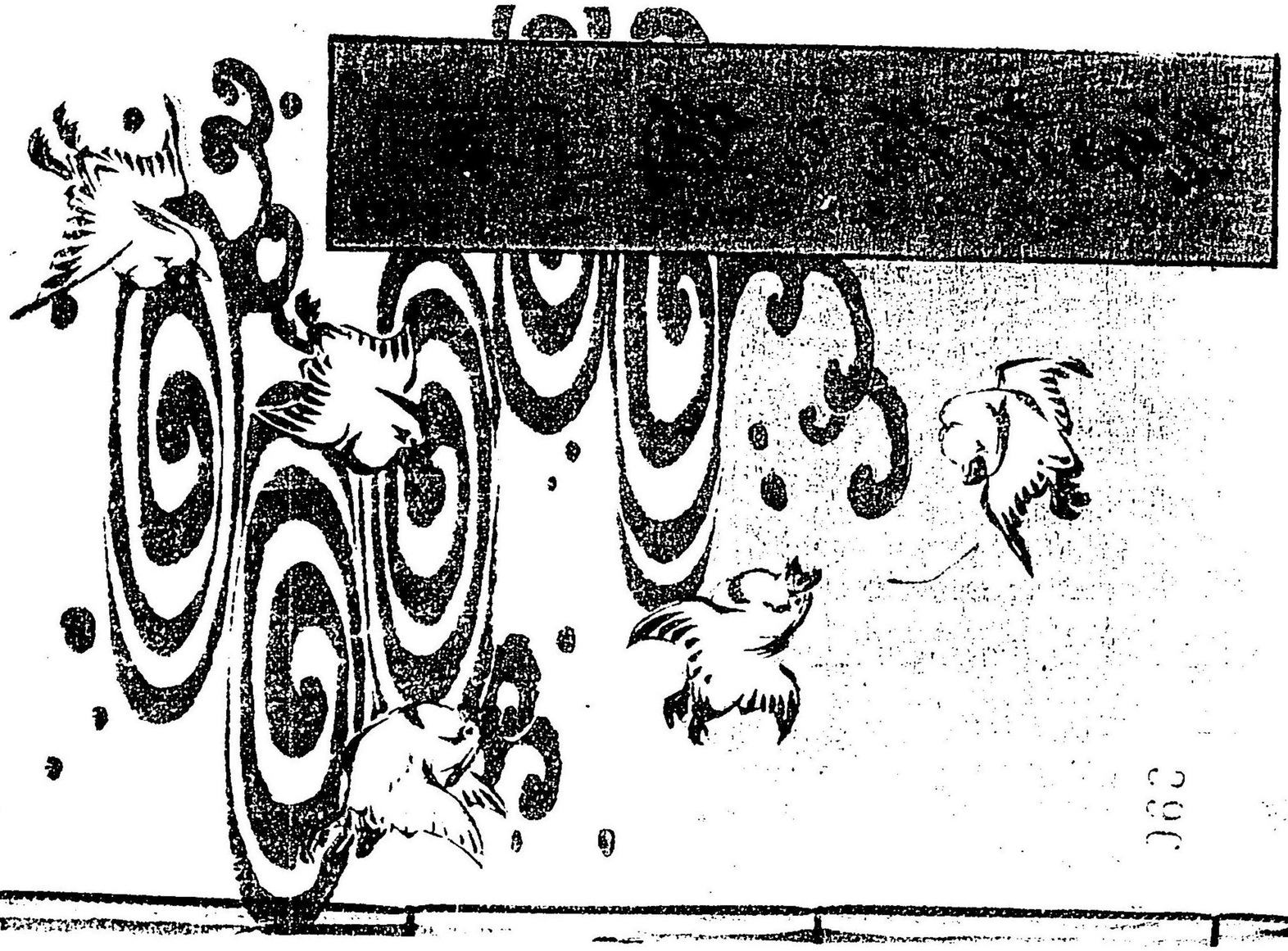


年々歳々新たに賀を年立つる朝日に皆様方
助高屋が家の哥舞伎狂言鶯塚
やうく幸ひつて松亭主人
鶯塚の後を次ぎ元の堂に
嗚呼如何せん大樹の梅野梅の華
否めど書津に再三
梅ごとやく接穂とする
色香別り変りなく粋な梅の枝源之助
うぐひす塚の終乃巻を美る

明治十四年春

泉竜亭是正戯述

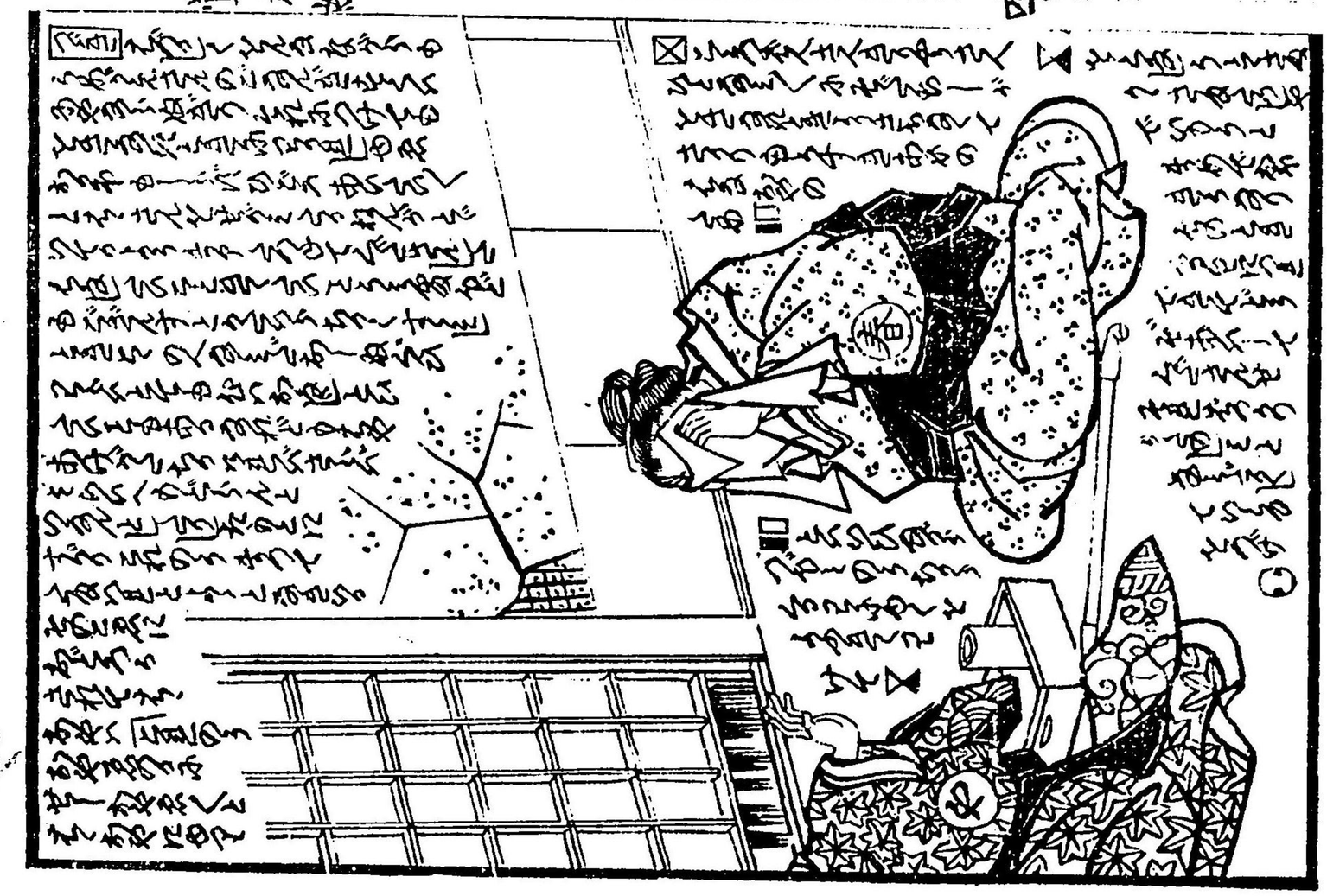
年々歳々新らたに賀を年立つる朝日に皆様方の
助高屋が家の哥舞伎狂言に鶯塚と題して
やう〳〵幸ひにして松亭主人五編の終りに終らる
鶯塚の後を次ぐ梓元の乃望あり邪まんぐ
嗚呼如何ともせん大樹の梅野梅の華は接へ
否めど書津るさぶ去テンポ枝と糸の間と密と接木の
梅ごとやしからん接穂とする堂木乃能まれべ梢まで
色香に別り変りなく粋さ梅の枝源之助お、法華経と
うぐひす塚の終乃巻を爰に

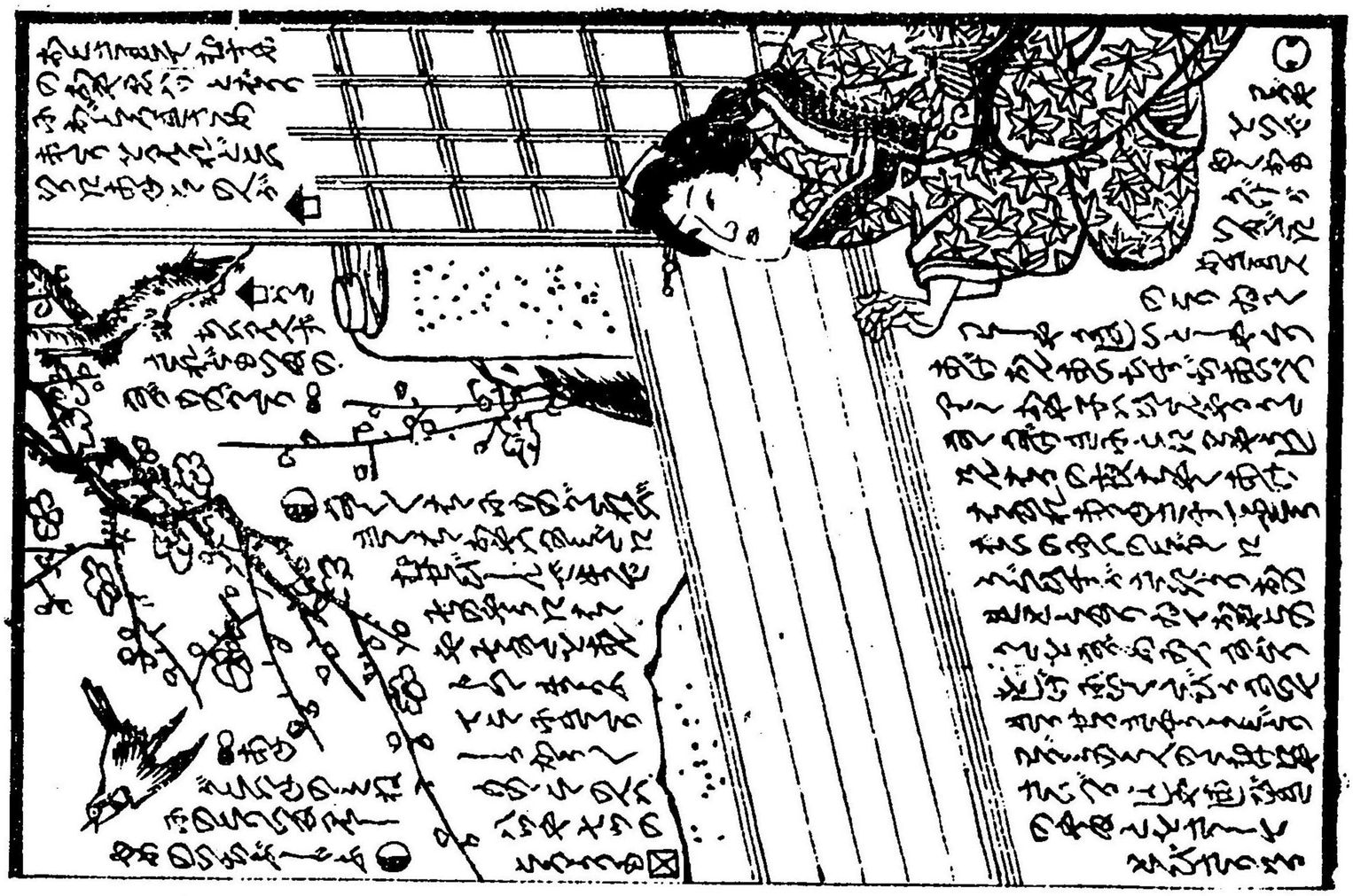
明治十四年春

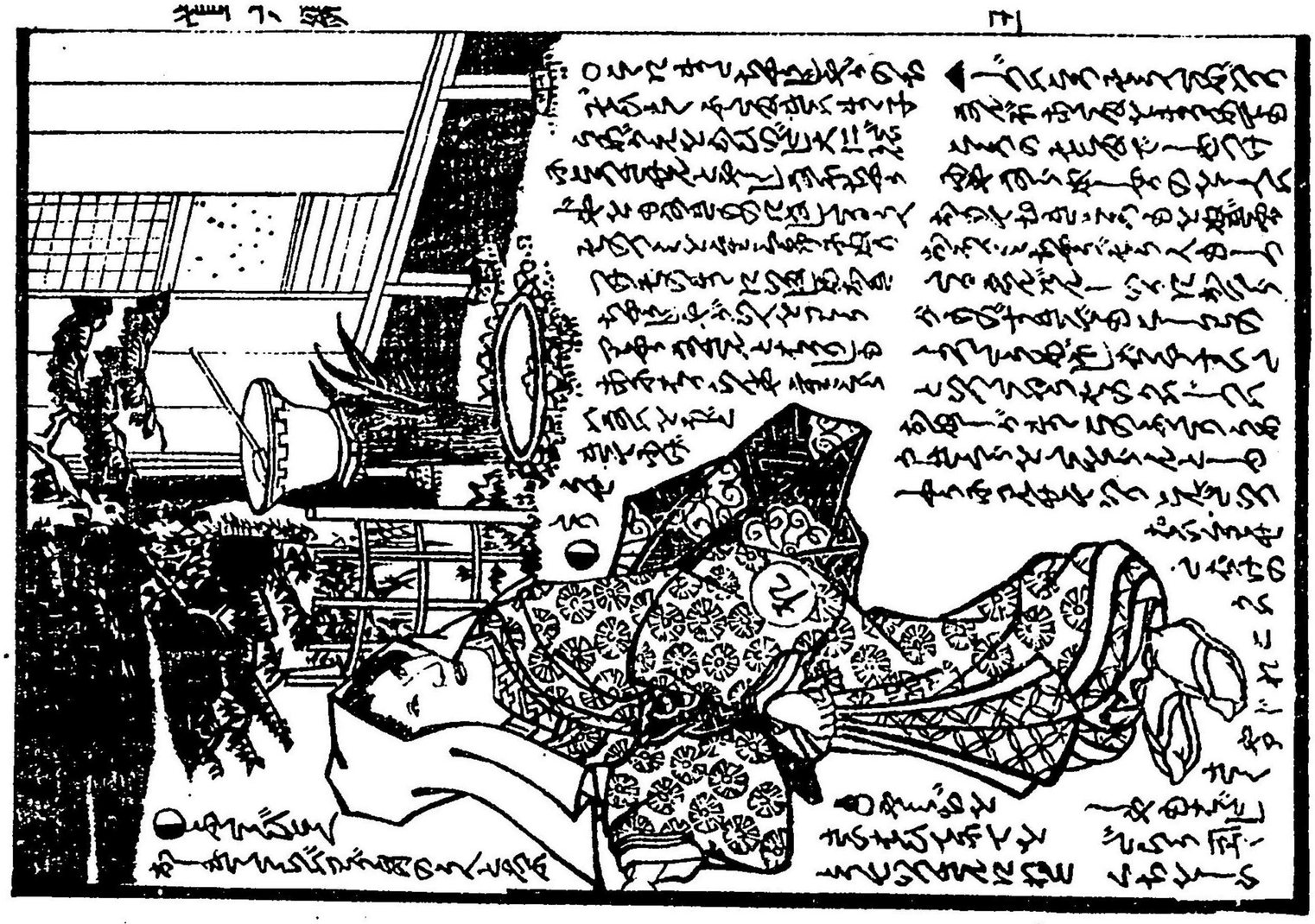
泉竜亭是正戯述

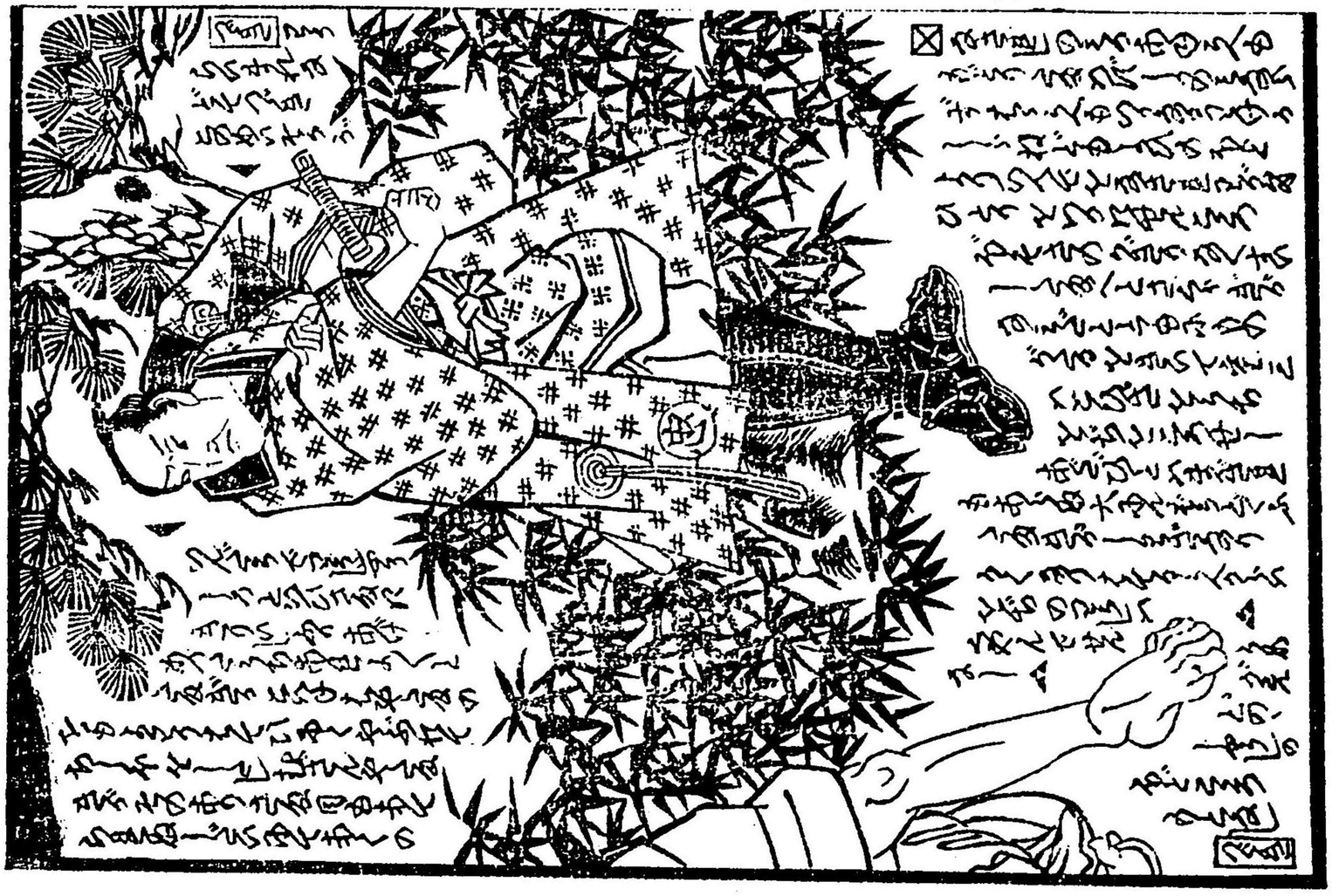
長者屋敷梅の枝
燃
末廣本

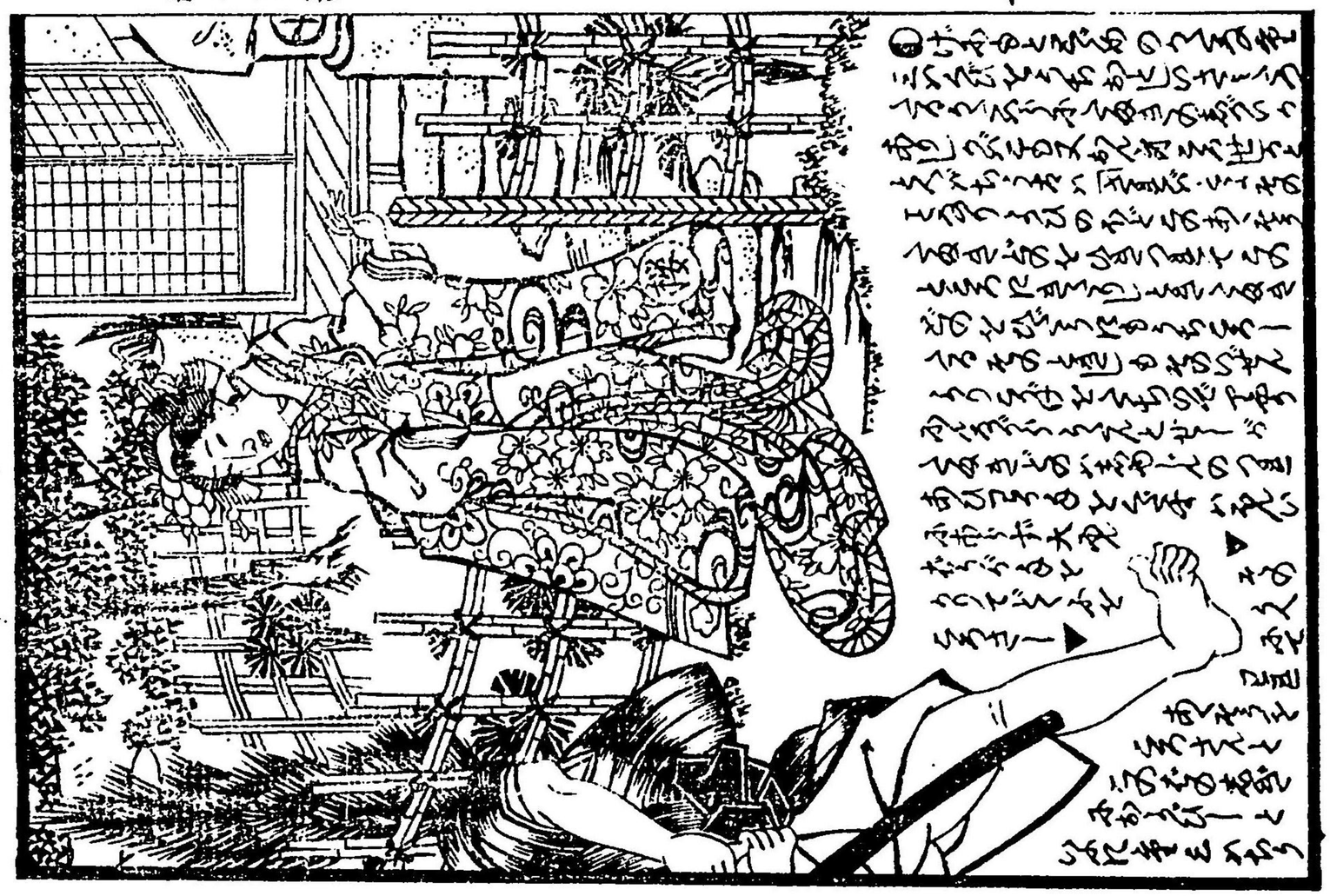
佐々木蔵之助
23

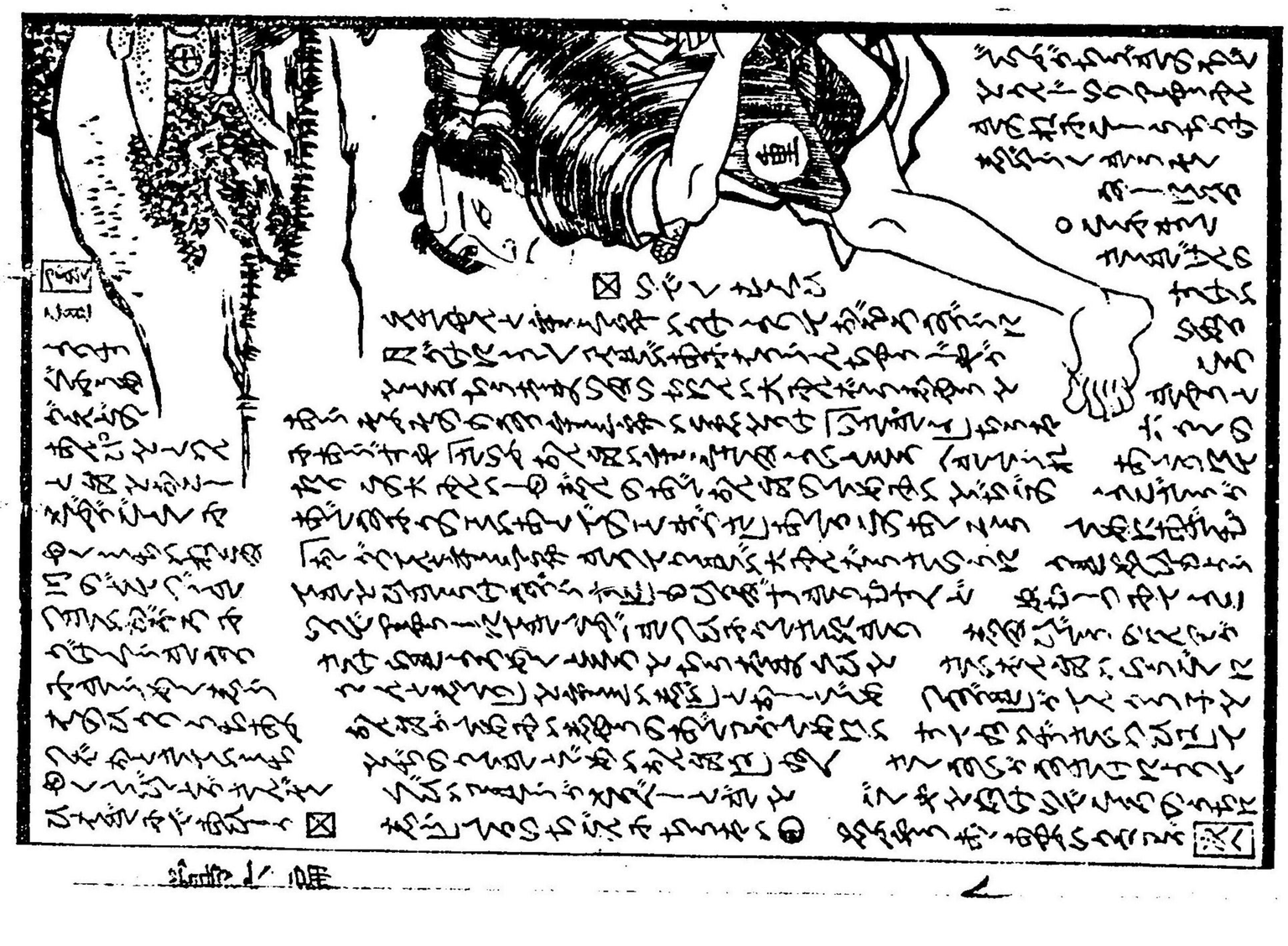


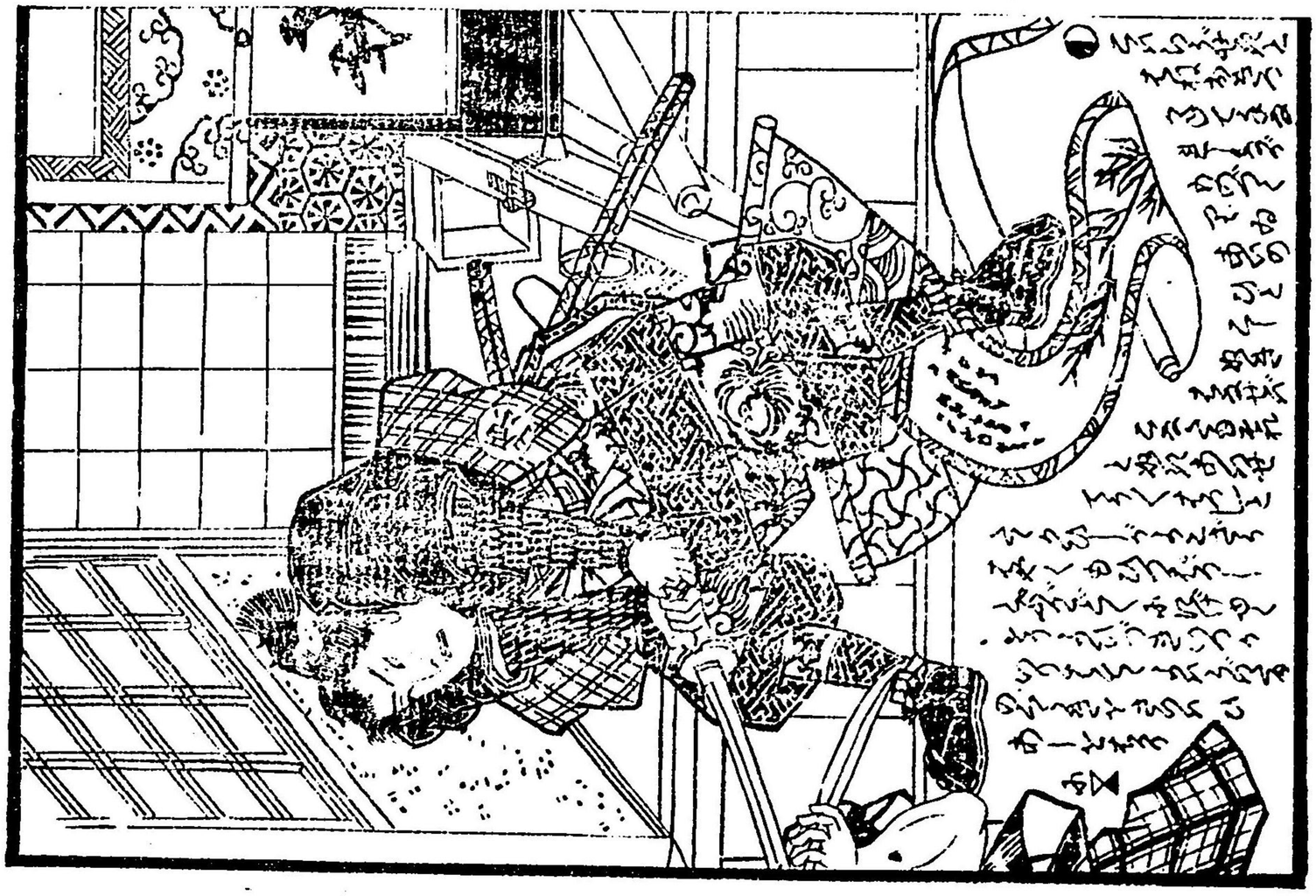


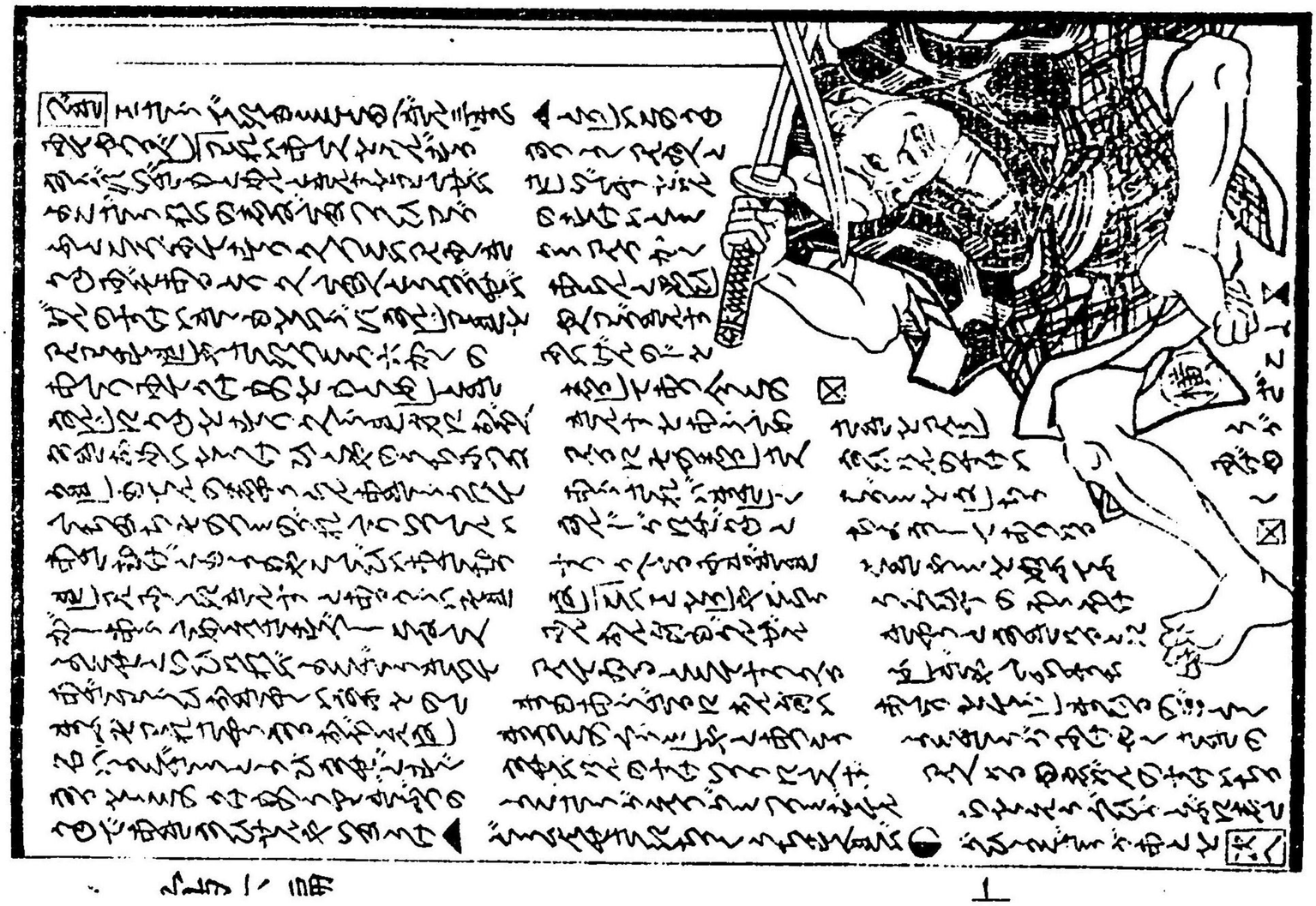


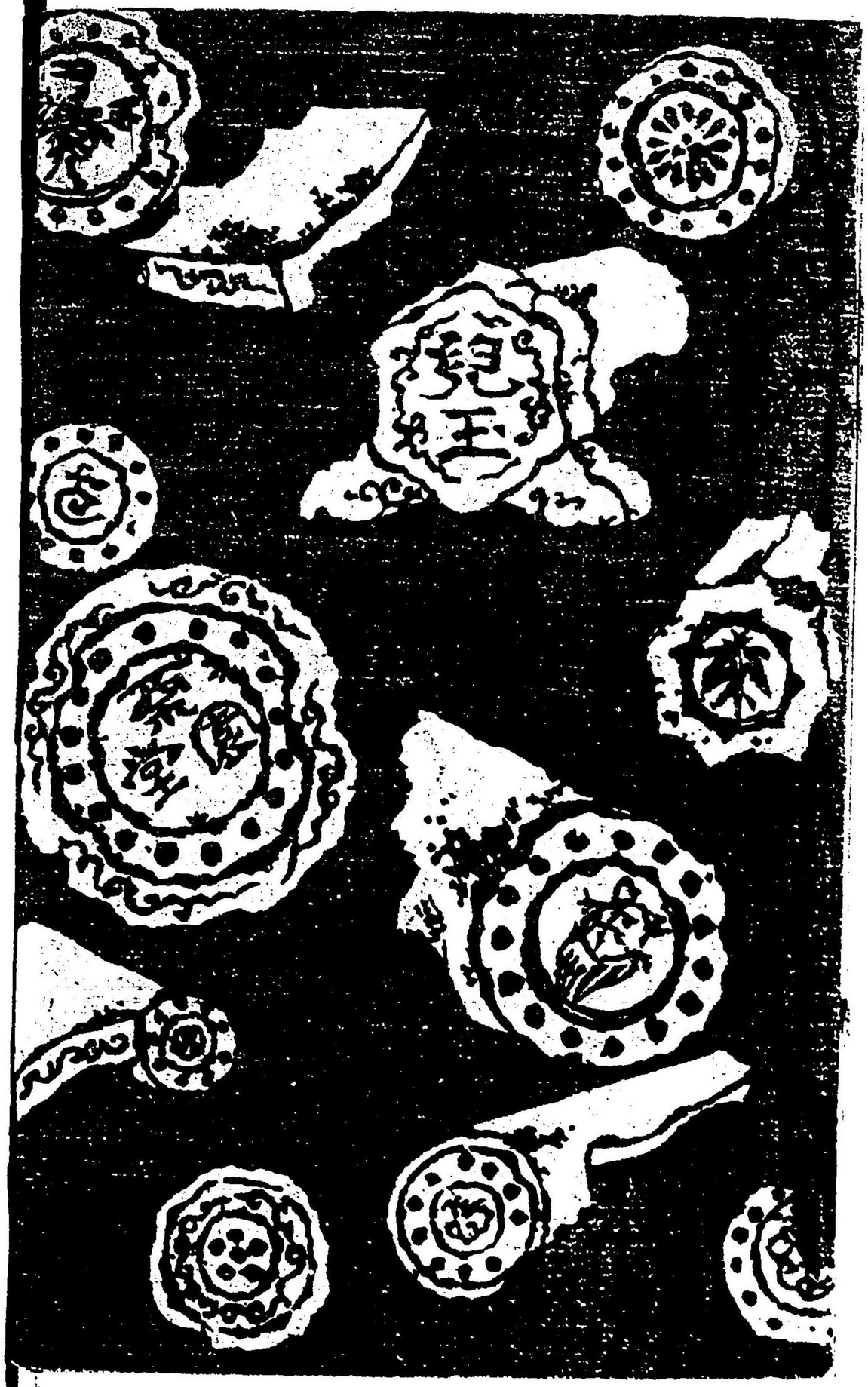












特67
390

091937-001-5

特67-390

鶯塚梅の魁　6編

泉竜亭　是政／述

上

M14

DBP-0050